

小児がん拠点病院 現況報告書

令和元年9月1日時点について記載

✓チェック欄
に未入力なし

病院名	東北大学病院												
よみがな	とうほくだいがくびょういん										✓		
郵便番号	〒	980-8574									✓		
住所	宮城県	仙台市青葉区星陵町1-1									✓		
よみがな		せんだいしあおばくせいりょうまち									✓		
電話(代表)	022-717-7000										✓		
FAX(代表)	022-717-8886												
e-mail(代表)	ijih-thk@umin.net												
HPアドレス	https://www.hosp.tohoku.ac.jp/												
診療科	開設診療科数	44									✓		
診療科名(具体的に記載)	内科、腎臓・内分泌科、血液内科、リウマチ科、糖尿病・代謝内科、漢方内科、腫瘍内科、循環器内科、感染症内科、老年内科、呼吸器内科、消化器内科、心療内科、外科、消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、胃腸外科、移植・食道・血管外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、麻酔科、救急科、呼吸器外科、産婦人科、泌尿器科、脳神経内科、脳神経外科、精神科、小児科、小児外科、小児腫瘍外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、小児歯科、矯正歯科、病理診断科										✓		
外来診療受付時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8	時	30	分	～	11	時	00	分	✓
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
外来診療時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8	時	30	分	～	17	時	00	分	✓
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
休診日	土曜日、日曜日、祝日										✓		
初診時の予約	一部の診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
初診時の紹介状の要否	すべての診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
病床数	総病床数	1,160	床								✓		

診療実績 (平成30年1月1日～12月31日)

年間新入院患者数 ※1	1,614	人	✓
年間新入院小児がん患者数 ※1	65	人	✓
年間新入院患者数に占める小児がん患者の割合	4.0	%	
小児がん入院患者数 ※2	249	人	✓
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	3,074	日	✓
小児がん入院患者における再発患者数 ※3	50	人	✓
外来小児がん患者数 ※4	7,623	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	4	人	✓
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※5	0	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※5	64	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	28	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※6	4	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関数	4	機関	✓

※1 18歳以下を対象とする。年間新入院患者数は総数を計上する。

※2 入院患者数は延べ数で計上する。なお、同一患者が当月中に2回入院した場合には2件とし、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。

※3 18歳以下を対象とする。初回治療後に再発もしくは病態が増悪した入院患者数を延べ数で計上する。初回治療入院中に再発もしくは病態が増悪した場合も計上する。

※4 診断時18歳以下の診断例とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。

※5 診断時18歳以下の診断例とし、総数を計上する。

※6 診断時に18歳以下であった患者の総数を計上するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

がんに関する専門外来の名称

小児腫瘍科、小児腫瘍外科

✓

届出された先進医療の状況

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

[別紙1](#)

職員数

総数(事務職員を含む)

3,036 人

✓

人数 うち常勤(※)

医師

614 601

✓

歯科医師

178 144

✓

薬剤師

80 79

✓

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはならない。

保健師
看護師
准看護師
理学療法士
作業療法士
視能訓練士
言語聴覚士
義肢装具士
診療放射線技師
臨床検査技師
衛生検査技師
臨床工学技士
管理栄養士
栄養士
社会福祉士
精神保健福祉士
介護福祉士
保育士

0	0
1,200	1,172
0	0
24	24
9	9
16	16
8	7
0	0
69	69
117	112
3	3
29	29
12	12
0	0
13	13
3	3
0	0
9	8

みなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

人数 うち常勤(※)

日本小児血液・がん学会 専門医
日本小児血液・がん学会 指導医
日本小児血液・がん学会 暫定指導医
日本小児血液・がん学会 認定外科医
日本小児外科学会 専門医
日本小児外科学会 指導医
日本小児科学会小児科 専門医
日本小児神経学会 小児神経専門医
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門
日本病理学会 病理専門医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
がん治療認定医機構 がん治療認定医
がん治療認定医機構 暫定教育医
日本放射線腫瘍学会 認定医
日本緩和医療学会 緩和医療専門医
日本緩和医療学会 緩和医療認定医
日本看護協会 がん看護専門看護師
日本看護協会 小児看護専門看護師

4	4
1	1
1	1
1	1
5	5
3	3
52	51
5	5
27	13
11	7
12	12
42	6
5	3
0	0
1	1
0	0
3	3
4	4

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

日本看護協会 地域看護専門看護師
 日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師
 日本看護協会 緩和ケア認定看護師
 日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師
 日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
 日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師
 日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
 日本医療薬学会 がん専門薬剤師
 日本臨床細胞学会 細胞検査士
 日本医学放射線学会 医学物理士
 日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師
 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士
 一般社団法人 日本病態栄養学会/
 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士
 一般社団法人 日本人類遺伝学会
 及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー
 一般社団法人 日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー
 チャイルドライフスペシャリスト
 ホスピタルプレイスペシャリスト

0	0
1	1
2	2
2	2
2	2
2	2
4	4
2	2
2	2
10	9
4	4
5	5
9	8
2	2
1	1
0	0
1	1
0	0

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

病院名: 東北大学病院

「A」項目の充足状況・・・ 76 / 76 100.0%

1 診療体制			A : 必須 B : 望ましい - : 参考		はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない					
(1) 診療機能							チェック欄に未入力なし		Aの充足状況	
① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供										
イ ウ エ オ カ キ	小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。		A	はい	(はい／いいえ)	8	✓	○		
	専門とするがんについて別紙2に記載すること。			別紙2		9				
	小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、がんセンター（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的に開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種の参加を求めている、がんセンターで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。		A	はい	(はい／いいえ)	10	✓	○		
	がんセンターの開催回数（平成30年1月1日～12月31日）		-	108	回	11	✓			
	小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。		A	はい	(はい／いいえ)	12	✓	○		
	長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。		-	はい	(はい／いいえ)	13	✓			
	長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙3に記載すること。			別紙3		14				
	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。		A	はい	(はい／いいえ)	15	✓	○		
	AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況）について別紙4に記載すること。			別紙4		16				
	急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。		A	はい	(はい／いいえ)	17	✓	○		
	治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。		B	はい	(はい／いいえ)	18	✓			
	生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙5に記載すること。			別紙5		19				
	保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。		A	はい	(はい／いいえ)	20	✓	○		
② 薬物療法の提供体制										
	薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、がんセンターと連携協力すること。		A	はい	(はい／いいえ)	22	✓	○		
	薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制について別紙6に記載すること。			別紙6		23				
③ 緩和ケアの提供体制										
ア	小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム（以下「緩和ケアチーム」という）を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。		A	はい	(はい／いいえ)	25	✓	○		

	緩和ケアチームへの患者紹介の手順について別紙8に記載すること。	別紙8	27		
イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。	B はい (はい／いいえ)	28	☒	
	緩和ケア外来について別紙9に記載すること。	別紙9	29		
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的開催している。	A はい (はい／いいえ)	30	☒	☐
	緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	- 25 回	31	☒	
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。	A はい (はい／いいえ)	32	☒	☐
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例: 医療機関のwebサイトに掲載)	- 医療機関のwebサイトに掲載	33		
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A はい (はい／いいえ)	34	☒	☐
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。	B はい (はい／いいえ)	35	☒	
	緩和ケア病棟について別紙10に記載すること。	別紙10	36		
④ 病病連携・病診連携の協力体制			37		
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A はい (はい／いいえ)	38	☒	☐
	地域の医療機関との連携協力体制について別紙11に記載すること。	別紙11	39		
イ	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A はい (はい／いいえ)	40	☒	☐
ウ	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備している。	B いいえ (はい／いいえ)	41	☒	
エ	ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B はい (はい／いいえ)	42	☒	
⑤ セカンドオピニオンの提示体制			43		
	小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A はい (はい／いいえ)	44	☒	☐
	セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙12に記載すること。	別紙12	45		
⑥ その他			46		
	小児がん患者の親へのケアを実施している。	- はい (はい／いいえ)	47	☒	
(2)診療従事者			48		
用語の定義: 専任: 当該診療の実施担当者で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。 専従: 就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。 ※専任の人数には、専従も含めて記載すること。			49		
① 専門的な知識および技能を有する医師の配置			50		

			ア 放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	24	人	1人以上	51	☒	☐
--	--	--	----------------------------------	---	----	---	------	----	-------------------------------------	-----------------------

	放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	24	人	52	✓	
イ	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	13	人	53	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	13	人 1人以上	54	✓	○
	薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	13	人	55	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	13	人	56	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	13	人	57	✓	
ウ	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	5	人 1人以上	58	✓	○
	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	5	人	59	✓	
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	2	人 1人以上	60	✓	○
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	2	人	61	✓	
	緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	7	人	62	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	7	人	63	✓	
	受講率	-	100.0	%	64		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	65	✓	
	受講率	-	0.0	%	66		
	小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。	-	25	人	67	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	21	人	68	✓	
	受講率	-	84.0	%	69		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	6	人	70	✓	
	受講率	-	24.0	%	71		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、小児がん患者の主治医や担当医となることは想定されないが、主治医等から診察依頼を受けた場合や当直業務などで小児がん患者に対する診療を行うことがある者の人数。	-	38	人	72	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	2	人	73	✓	
	受講率	-	5.3	%	74		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	75	✓	
	受講率	-	0.0	%	76		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、病理診断医や放射線診断医など、小児がん患者との日常的な対面は想定されない者の人数。	-	52	人	77	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	6	人	78	✓	
	受講率	-	11.5	%	79		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	80	✓	
	受講率	-	0.0	%	81		
	施設に所属する初期臨床研修2年目から初期臨床研修修了後3年目までのすべての医師の人数。	-	84	人	82	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	5	人	83	✓	
	受講率	-	6.0	%	84		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	85	✓	
	受講率	-	0.0	%	86		
	病院長はPEACE(成人の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	87	✓	
	病院長はCLIC(小児の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	88	✓	

	エ 病理診断に携わる医師の人数。	- 15 人	89	✓
--	------------------	--------	----	---

	病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	11	人	1人以上	90	✓	○
	病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	7	人		91	✓	
② 専門的な知識および技能を有するコメディカルスタッフの配置								
ア	放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。	A	11	人	1人以上	93	✓	○
	放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	11	人		94	✓	
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。	A	4	人	1人以上	95	✓	○
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	4	人		96	✓	
イ	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。	-	10	人		97	✓	
	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	10	人	1人以上	98	✓	○
ウ	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。	-	6	人		99	✓	
	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	6	人	1人以上	100	✓	○
	緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	2	人		101	✓	
	緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	0	人		102	✓	
エ	細胞診断に関する業務に携わる者の人数。	B	9	人		103	✓	
オ	小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。	B	11	人		104	✓	
	うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	4	人		105	✓	
	小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士(特に医療ソーシャルワーカー)、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援する担当者の人数。	B	6	人		106	✓	
	小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理士又は臨床心理士の人数	-	3	人		107	✓	
	小児科領域に関する専門的知識を有する社会福祉士の人数	-	2	人		108	✓	
	医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の人数	-	1	人		109	✓	
③ その他								
ア	小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。	B	はい	(はい／いいえ)		111	✓	
イ	拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数(放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A	はい	(はい／いいえ)		112	✓	○
	学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい／いいえ)		113	✓	
	論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい／いいえ)		114	✓	
(3) 医療施設								
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置								
ア	放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A	はい	(はい／いいえ)		117	✓	○
イ	集中治療室を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)		118	✓	○
	集中治療室を設置している場合、一般向けの特集中治療室(ICU)の数	-	18	床		119	✓	
	集中治療室を設置している場合、小児専門の特集中治療室(PICU)の数	-	0	床		120	✓	

			ウ 小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。	A	はい	(はい／いいえ)	121	☒	☐
					別紙13		122		

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙14に記載すること。		別紙14	123		
小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)		1回	124	✓	
② 敷地内禁煙等					
敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。		A はい (はい/いいえ)	126	✓	○
敷地内は全面禁煙である。		- はい (はい/いいえ)	127	✓	
(4)診療実績					
① 小児がんについて年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。		A はい (はい/いいえ)	129	✓	○
② 固形腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。		A はい (はい/いいえ)	130	✓	○
③ 造血器腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。		A はい (はい/いいえ)	131	✓	○
診療実績等について別紙2および別紙15に記載すること。		別紙2・別紙15	132		
(5)その他					
① 小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。		A はい (はい/いいえ)	134	✓	○
特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。		- はい (はい/いいえ)	135	✓	
特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。		- はい (はい/いいえ)	136	✓	
② 小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。		A はい (はい/いいえ)	137	✓	○
公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。		- はい (はい/いいえ)	138	✓	
日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。		- はい (はい/いいえ)	139	✓	
③ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。		A はい (はい/いいえ)	140	✓	○
上記研修会を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置している。		- はい (はい/いいえ)	141	✓	
配置している上記研修会を受講した医師の人数		A 1人	142	✓	○
配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数		- 2人	143	✓	
(配置していない場合)令和元年度中に講習を受講する予定である。		- (はい/いいえ)	144		
2 研修の実施体制					
小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催している。		A はい (はい/いいえ)	146	✓	○
小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙16に記載すること。		別紙16	147		
3 情報の収集提供体制					
(1)相談支援センター					
小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。		A はい (はい/いいえ)	150	✓	○

広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)		-	医療機関のwebサイトに掲載		151		
相談支援センターの体制について別紙17に記載すること。			別紙17		152		
相談支援センターの状況について別紙18に記載すること。			別紙18		153		
相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙19に記載すること。			別紙19		154		
①	「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	155	✓	○
②	患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	156	✓	○
③	院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	157	✓	○
	相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい/いいえ)	158	✓	
	小児がん患者団体等との連携について別紙20に記載すること。		別紙20		159		
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)					160		
ア	小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	161	✓	○
	アの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	3	件	162	✓	
イ	領域別的小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	163	✓	○
	イの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1	件	164	✓	
ウ	セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	165	✓	○
	ウの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	8	件	166	✓	
エ	小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	167	✓	○
	エの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	72	件	168	✓	
	エのうち、アピアランスに関する相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	7	件	169	✓	
オ	小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	170	✓	○
	オの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	27	件	171	✓	
カ	小児がん連携病院等および医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	172	✓	○
	カの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1	件	173	✓	
キ	医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	174	✓	○
	キの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1	件	175	✓	
ク	AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。	A	はい	(はい/いいえ)	176	✓	○
	クの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	17	件	177	✓	
ケ	必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	178	✓	○
	ケの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1	件	179	✓	
コ	その他相談支援に関することを行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	180	✓	○

コの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)			-	91	件	181	☒	
(2)院内がん登録								
①	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	(はい/いいえ)	182	☒	☐	
②	院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	183	☒	☐	
③	院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数	A	1	人 1人以上	184	☒	☐	
	うち専従者の人数	-	1	人	185	☒	☐	
	配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	(はい/いいえ)	186	☒	☐	
④	院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	A	はい	(はい/いいえ)	187	☒	☐	
⑤	適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	-	はい	(はい/いいえ)	188	☒	☐	
⑥	院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	-	はい	(はい/いいえ)	189	☒	☐	
⑦	院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。	B	はい	(はい/いいえ)	190	☒	☐	
⑧	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要情報を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	191	☒	☐	
(3)診療実績、診療機能等の情報提供								
	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	192	☒	☐	
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載			193	☒	☐
(4)その他								
	地域住民に対する病院、相談支援センター、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟(設置されているのみ)に関するアピールを別紙21に記載すること。		別紙21			194	☒	☐
4 臨床研究に関すること								
	他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	(はい/いいえ)	195	☒	☐	
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	196	☒	☐	
(2)-1	進行中の臨床試験(治験を除く。以下同じ。)の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	197	☒	☐	
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載			198	☒	☐
(2)-2	進行中の臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	199	☒	☐	
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載			200	☒	☐
(3)	参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	B	はい	(はい/いいえ)	201	☒	☐	
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	当院で実施している治験について、実施診療科、対象			202	☒	☐
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)	203	☒	☐	
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月	(西暦XXXX年XX月)	204	☒	☐	

	臨床研究を支援する専門の各部門のメンバーについて別紙22に記載すること。		別紙22	209	
(5)	臨床研究コーディネーター（CRC）を配置している。	B	はい	(はい／いいえ)	210
					✓

臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数	-	32	人	211	☒	
臨床研究の問い合わせ窓口について別紙23に記載すること。		別紙23		212		
臨床研究の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	20	件	213	☒	
臨床試験以外の臨床研究実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	5	件	214	☒	
治験の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1	件	215	☒	
5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備						
(1) 保育士を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	217	☒	☐
保育士の人数	-	5	人	218	☒	
保育士のうち常勤の人数	-	5	人	219	☒	
(2) 病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	220	☒	☐
特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい／いいえ)	221	☒	
特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)	222	☒	
病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)	223	☒	
高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)	224	☒	
(3) 退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	225	☒	☐
教育支援、復園・復学支援の状況について別紙24に記載すること。		別紙24		226		
(4) 子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)	227	☒	☐
AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい／いいえ)	228	☒	
(5) 家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい／いいえ)	229	☒	☐
部屋数	-	18	部屋	230	☒	
長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)	231	☒	
長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙25に記載すること。		別紙25		232		
(6) 家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	233	☒	☐
(7) 患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	(はい／いいえ)	234	☒	
6 PDCAサイクル						
(1) 自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい	(はい／いいえ)	236	☒	☐
把握・評価の方法、改善策等について別紙26に記載すること。		別紙26		237		
(2) これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	238	☒	☐
地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載		239		
7 医療安全体制						
(1) 組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	241	☒	☐
(2) 医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	242	☒	☐

(3) 医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	A	はい (はい／いいえ) ²⁴³	☒	☐
----------------------------------	---	----------------------------	-------------------------------------	-----------------------

(4) 当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。	-	はい	(はい／いいえ)	244	✓	
当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。				245		
① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。	A	はい	(はい／いいえ／-)	246	✓	○
② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	A	はい	(はい／いいえ／-)	247	✓	○
③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	A	はい	(はい／いいえ／-)	248	✓	○
(5) 医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	A	はい	(はい／いいえ)	249	✓	○
医療安全体制について別紙27に記載すること。		別紙27		250		

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 東北大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在(実施件数は平成31年4月1日～令和元年7月31日)

先進医療窓口情報									
先進医療の実施		(実施しています／実施していません)							
先進医療A	問い合わせ窓口	(窓口があります／窓口がありません)							
	窓口名								
	技術名								
	電話番号	代表		内線					
		直通							
	対象となる病名・病状								
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)				件				
先進医療B	問い合わせ窓口	(窓口があります／窓口がありません)							
	窓口名								
	技術名								
	電話番号	代表		内線					
		直通							
	対象となる病名・病状								
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)				件				

各種小児がんの情報

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

小児がんについての対応状況を記載してください。
※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。
※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。
※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

✓チェック欄
に未入力なし

小児脳腫瘍

集学的治療の実施状況

○

(○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

病院名:

東北大学病院

時期・期間:

令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ						
主な診療科名 （5診療科まで）	医師数	当該疾患を専門としている医師数		手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
						体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		治療内容	治療実績	医師の専門分野			
1 小児科・小児腫瘍科	9	6	状況	○	○	○	○	○	×	○				脳神経外科と放射線治療科との共同のもと、主に化学療法、放射線療法と全身管理を担当しています。陽子線治療は、総合南東北病院にて行っています。	東北大学小児腫瘍センター	http://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績	あり	あり	あり	なし	あり	なし	あり						http://				
2 脳神経外科	10	2	状況	○	○	○	○	○	×	×				小児科・小児腫瘍科と放射線治療科との共同のもと、主に手術、化学療法、放射線療法と全身管理を担当しています。陽子線治療は総合稲見東北病院にて行っています。	脳神経外科 患者さんへ	http://www.nsg.med.tohoku.ac.jp/patient/	掲載なし	掲載なし	掲載なし	
			実績	あり	あり	あり	あり	あり	なし	なし					東北大学脳神経外科	http://www.nsg.med.tohoku.ac.jp/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3 放射線治療科	7	5	状況	×	×	○	○	○	×	×				小児科・小児腫瘍科と脳神経外科との共同のもと、主に放射線療法を担当しています。	放射線治療科	http://www.radiol.med.tohoku.ac.jp/chiryo	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績	なし	なし	あり	なし	あり	なし	なし						http://				
4			状況													http://				
			実績													http://				
5			状況													http://				
			実績													http://				
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください						治療名						治療内容								
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日						髄芽腫、神経膠腫、上衣腫、星細胞腫、胚細胞性腫瘍、視神経膠腫、他。														

小児の眼・眼窩腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日												各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど		当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門とし ている 医師 数		手術	冷凍 凝固術	光凝固 術	化学 療法	眼動注	放射線療法			陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください					※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容		
									体外 照射	IMRT	小線源 治療		他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)					治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野
																		見出し	アドレス			
1	小児科・小児腫瘍科	9	6	状況	○	○	○	○	×	○	○	×	×				眼科と放射線治療科との共同のもと、 主に化学療法と全身管理を担当してい ます。	東北大学病院小児腫瘍センター	http://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	あり	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし						http://				
2	放射線治療科	7	5	状況	×	×	×	×	×	○	○	×	×				小児科・小児腫瘍科と眼科との共同の もと、主に化学療法と全身管理を担当し ています。	放射線治療科	http://www.radiol.med.tohoku.ac.jp/chiryo	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	なし	なし	あり	なし	なし	なし						http://				
3				状況															http://			
				実績															http://			
4				状況															http://			
				実績															http://			
5				状況															http://			
				実績															http://			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名					治療内容												
他の治療(1)																						
他の治療(2)																						
他の治療(3)																						
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日					網膜芽腫																	

小児悪性骨軟部腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日											各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門とし ている医 師数	手術				化学 療法	放射線療法		陽子線 治療	重粒子 線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください				※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容			
			切・離断 術	患肢 温存術	再建術	骨移植 術		体外 照射	小線源 治療			他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)				治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野	
																					見出し
1	小児科・小児腫瘍科	9	6	状況	○	○	○	○	○	○	○	×				整形外科と放射線治療科との共同のもと、主に化学療法と全身管理を担当しています。陽子線治療は総合南東北病院にて行っています。	東北大学病院小児腫瘍センター	http://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	あり	あり	あり	あり	あり	なし	あり	なし						http://			
2	小児外科	9	9	状況	○	×	×	×	×	×	×	×				小児科・小児腫瘍科、放射線治療科との共同のもと、主に手術と全身管理を担当しています。	東北大学病院小児外科	http://www.ped-surg.med.tohoku.ac.jp/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし									
3	整形外科	13	2	状況	○	○	○	○	×	×	×	×	×			整形外科だけでなく、当院腫瘍内科、小児科、放射線科、病理診断部と連携して行っています	整形外科のご案内	https://www.hosp.tohoku.ac.jp/departments/d1206/	掲載あり	掲載あり	掲載なし
				実績	なし	あり	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし				スタッフ紹介	http://www.ortho.med.tohoku.ac.jp/staff.php	掲載なし	掲載なし	掲載あり
4	放射線治療科	7	5	状況	×	×	×	×	×	○	×	×	×			小児科・小児腫瘍科、整形外科との共同のもと、主に放射線治療を担当しています。	放射線治療科	http://www.radiol.med.tohoku.ac.jp/chiryo	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	なし	なし	なし	なし	あり	なし	なし	なし					http://			
5				状況														http://			
				実績														http://			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名								治療内容								
他の治療(1)																					
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日					骨肉腫、Ewing肉腫、未分化肉腫、など。																

その他の小児固形腫瘍

集学的治療の実施状況

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門とし て いる医 師数		手術	化学 療法	放射線療法		陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください			掲載されている内容				
						体外 照射	小線源 治療		他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)				治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野		
								見出し		アドレス									
1	小児科・小児腫瘍科	9	6	状況	○	○	○	○	○				小児外科、放射線治療科との共同のもと、主に化学療法と全身管理を担当しています。陽子線治療は総合南東北病院にて行っています。	東北大学病院小児腫瘍センター	http://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績	あり	あり	あり	なし	あり				http://							
2	小児外科	9	9	状況	○	×	×	×	×					東北大学病院小児外科	http://www.ped-surg.med.tohoku.ac.jp/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績	あり	なし	なし	なし	なし				http://							
3	放射線治療科	7	5	状況	×	×	○	×	×					放射線治療科	http://www.radiol.med.tohoku.ac.jp/chiryo	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績	なし	なし	あり	なし	なし				http://							
4			状況									http://							
			実績									http://							
5			状況									http://							
			実績									http://							
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください						治療名						治療内容							
他の治療(1)																			
他の治療(2)																			
他の治療(3)																			
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日						神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、胚細胞腫瘍、脾腫瘍、未分化肉腫、他。													

小児血液腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記その他の治療法欄と合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			掲載されている内容				
				自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種骨髄移植または臍帯血移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)	治療内容	治療実績		医師の専門分野				
1	小児科・小児腫瘍科	9	6	状況 実績	○ あり	○ あり	○ あり	○ あり	○ あり				放射線治療科との共同のもと、主に化学療法、造血幹細胞移植と全身管理を担当しています。 小児科・小児腫瘍科との共同のもと、主に放射線療法を担当しています。	東北大学病院小児腫瘍センター	http://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
															http://				
2	放射線治療科	7	5	状況 実績	× なし	× なし	× なし	× なし	○ あり	○ あり					放射線治療科	http://www.radiol.med.tohoku.ac.jp/chiryo	掲載あり	掲載あり	掲載あり
																http://			
3				状況 実績												http://			
																http://			
4				状況 実績												http://			
																http://			
5				状況 実績												http://			
																http://			
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください				治療名					治療内容										
他の治療(1)																			
他の治療(2)																			
他の治療(3)																			
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日				急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、組織球症慢性骨髄性白血病、ランゲルハンス細胞組織球症、他。															

長期にわたり診療するための具体的な診療体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

自施設内における長期フォローアップの体制、他施設との連携による長期フォローアップの体制等について具体的に記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙3を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

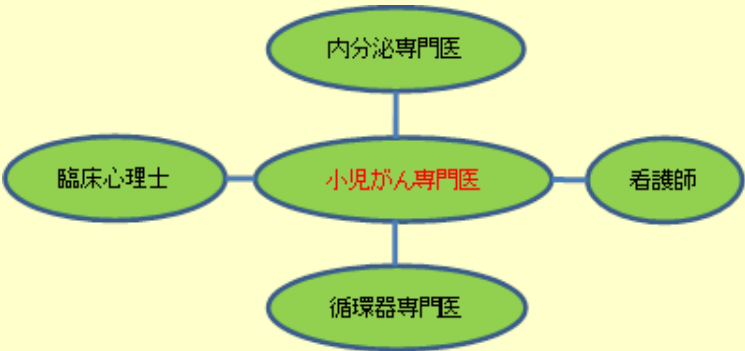
OK

東北大学病院内における長期フォローアップ体制としては、退院後の経過観察と外来治療のための各診療科の小児がん専門医による小児腫瘍専門外来とは別に、週2回の＜長期フォローアップ外来＞を月曜と金曜の午後に設けている。患者様の通院事情に応じ、できるだけ長期フォローアップ外来受診を勧め、不都合時は通常の小児腫瘍専門外来を長期的に受診して頂いている。その際、小児科内分泌外来および循環器外来専門医と連絡し、血液腫瘍学的側面の他に、内分泌学的精査と治療、循環器学的精査・治療とフォローアップを併用している。

また、必要な患者様に対して臨床心理士や看護師が介入を行い、心理・社会的側面のサポートを行っている(下図)。患者様が転居あるいは進学・就職のために他施設に転院の際には、転居先の適切な小児がん診療施設に紹介して長期フォローアップを継続して頂くが、東北地方内であれば、小児がん診療病院への紹介が多い。長期フォローアップシートとして、これまでの治療歴と経過をまとめたA4版両面1枚のサマリーシートを御両親あるいは本人にお渡しし、患者様と診療施設の理解に役立っている。

この他に、＜移植後フォローアップ外来＞を月4回(隔週月、金曜日)設け、造血幹細胞移植後患者のフォローアップを別枠で行っている。具体的には上記の長期フォローアップ外来の内容に加えて、移植後特有のケアを含めて、医師、看護師が移植後フォローアップカンファレンスを月1回事前に開催し、情報共有した上で、診療に当たっている。下図に、長期フォローアップ体制における多職種間および専門医師間の具体的な連携体制について図示する。

今年度より、長期フォローアップのための専任看護師を雇用し、上記体制の中心的な役割を果たしている。



AYA世代への診療提供体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況等）について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙4を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

ファイル形式

（ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

AYA世代への診療は当院血液免疫科や整形外科、脳神経外科などの成人診療科と連携し、18歳以下の急性白血病初発症例や固形腫瘍、脳腫瘍症例は小児科・小児腫瘍科にて診療を行っている症例が増加している。小児医療センターには、AYA世代の交流も可能な患者家族が語り合うためのスペース（写真：左）があり、自由に使用することが可能である。

病院全体としても患者がん診療相談室 がんサロン『ゆい』（写真：中）が設置されている。

退院後の対応について、病状や御本人、御家族の意向を踏まえた上で相談支援を行っている。復学支援については、公立高校および私立高校に診療スタッフが個別に連絡し、入院中の可能な限りの復学支援を依頼し、留年しなくても済むような配慮をして頂けるよう依頼している。現在、＜高校生学習支援プログラム＞として、東北大学医学部学生の有志がサークルを作り、平日夕方と土曜日午後の週3回、病棟内院内学級教室を利用して学習支援を行うことによる病棟内での直接的な復学支援プログラムを平成28年11月から開始している。（写真：右）また、宮城県教育庁高等教育課と、公立高校生の復学支援の公的体制について検討を始めているところである。



生殖機能の温存の支援を行う体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 東北大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在(患者数は平成30年1月1日～12月31日)

■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	0
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	0
がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	25

OK

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙5を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

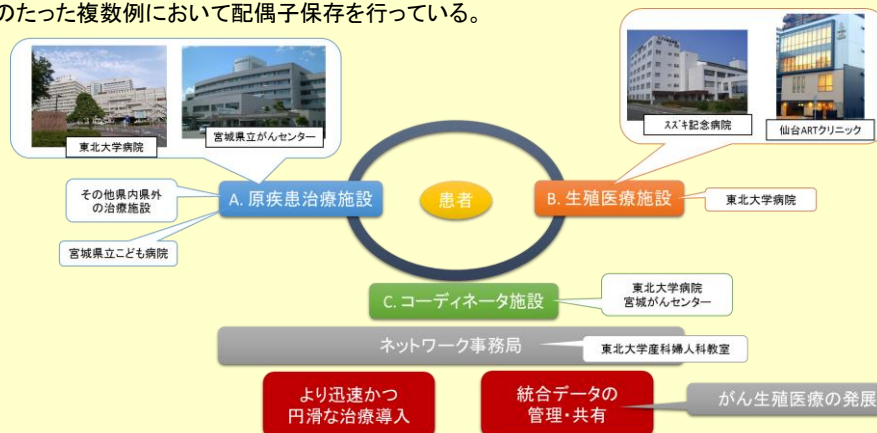
別添資料の提出有無 **なし** (あり/なし)

ファイル形式 **(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)**

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

AYA世代における、がん生殖医療の提供体制の構築は極めて重要な課題であり、東北大学病院では産婦人科を中心に、小児科、血液免疫内科、泌尿器科が連携して、宮城県がん生殖医療ネットワーク体制を構築した(下図)。東北大学病院産婦人科がネットワーク事務局となり、対象症例全体の把握を行っている。小児がん症例における生殖機能温存の支援を必要とする症例全員に、入院時にこのネットワークの概要を説明し、配偶子保存に関する情報提供の御希望がある場合は、ネットワーク事務局に連絡し、生殖医療全般の情報提供と症例登録を行う。その後、コーディネータ施設である東北大学病院あるいは宮城県立がんセンターにより、原疾患治療施設と生殖医療施設(実際に配偶子採取および保存を行う施設)との連携を図り、原疾患の治療になるべく影響しない日程調整や配偶子保存を行う体制となっている。これまでAYA世代の対象症例では、このネットワークにて多くの症例で情報提供を行い、御希望のたった複数例において配偶子保存を行っている。



薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名: 東北大学病院

開催された委員会の総件数: 12

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

OK

化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の名称、開催頻度、委員会のメンバーを記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

委員会の名称	プロトコル審査委員会	
委員会の開催頻度	1回/月	
委員会のメンバー	職種	役職
例	医師、看護師、薬剤師	腫瘍内科センター長、薬剤部長、副看護部長
1	医師	化学療法センター長
2	医師	化学療法副センター長・プロトコル申請責任医師(腫瘍内科)
3	医師	プロトコル申請責任医師(総合外科:乳腺・内分泌外科)
4	医師	プロトコル申請責任医師(泌尿器科)
5	医師	プロトコル申請責任医師(緩和医療科)
6	看護師	化学療法センター師長
7	薬剤師	薬剤部長・化学療法プロトコル管理事務局長
8	薬剤師	化学療法プロトコル管理事務局
9	薬剤師	化学療法プロトコル管理事務局
10	薬剤師	化学療法プロトコル管理事務局

OK

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数：

21

OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

緩和ケアチームの名称		東北大学病院緩和ケアチーム			OK
職種		常勤／非常勤	専門分野	資格等	
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。	
1	医師	常勤	緩和医療科3名、小児科2名	緩和医療専門医、がん薬物療法専門医	
2	医師	常勤	精神科2名		
3	看護師	常勤	がん看護師（5名）	がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん看護専門看護師	
4	看護師	常勤	地域連携		
5	薬剤師	常勤			
6	管理栄養士	常勤			
7	社会福祉士	常勤			
8	作業療法士	常勤			
9	歯科衛生士	常勤			
10	歯科医師	常勤			

緩和ケアチームへの患者紹介の手順

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

緩和ケアチームへの患者紹介の手順について記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙8を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

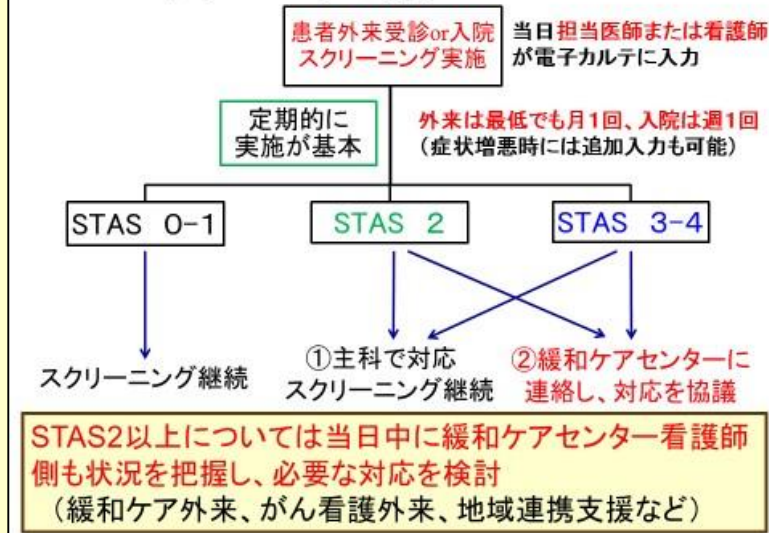
ファイル形式

(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

STAS-Jスクリーニングの流れ



緩和ケアセンターによる高得点患者の拾い上げ

患者
受診・入院

実施者：医師(外来)、看護師(病棟)
実施時期：入院時、1週間毎と定期的

- STAS2～3以上患者をリストアップする(毎日)
※スクリーニングデータの集計・分析
- 対処がされていない場合、緩和ケアセンター看護師が、部署に必ず訪問し、担当看護師と患者の状態を確認し、緩和ケアセンターの介入の可否を判断する

介入希望

なし

スクリーニング継続

あり

専門家に振り分ける

- 緩和ケアチーム(精神科含む)
- がん看護外来(退院後)
- がん相談支援室
- 介護保険・退院・転院調整

緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている（はい/いいえ）										はい	OK
2	緩和ケア外来の名称		緩和ケア外来									
3	担当診療科名		緩和医療科									
4	主な診療内容・特色		緩和ケア全般・抗がん治療中、セカンドオピニオンの患者も積極的に受け入れている									
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ		見出し	東北大学病院がんセンター・緩和ケアセンター								
			アドレス	http://www.cancercenter.hosp.tohoku.ac.jp/kanwa/kanwa3.html#gairai								
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）										はい	OK
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい	
	窓口の名称		緩和医療科外来									
	電話	代表	022-717-7000	(内線)	7768			直通	022-717-7768			
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい	OK
	窓口の名称		緩和医療科外来									
	電話	代表	022-717-7000	(内線)	7768			直通	022-717-7768			

緩和ケア病棟の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 東北大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟があります					
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理	届け出て受理されている					
3	小児の入院可否	可					
4	緩和ケア病棟の形式	院内病棟型					
5	緩和ケア病棟の病床数	22	床				
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し	東北大学病院がんセンター				
		アドレス	https://www.cancercenter.hosp.tohoku.ac.jp/kanwa/kanwa3.html				
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）	はい					
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く	10日					
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人) ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1		
		医師	8	ボランティアコーディネーター	1		
		看護師	21	臨床宗教師	1		
		看護助手	1				

OK
OK

10	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）								はい	OK
	窓口の名称		緩和医療科外来							
	電話	代表	022-717-7000	(内線)	7768			直通	022-717-7768	
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し	東北大学病院がんセンター		アドレス	https://www.cancercenter.hosp.tohoku.ac.jp/kanwa/kanwa3.html				
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）								はい	OK
	窓口の名称		緩和医療科外来							
	電話	代表	022-717-7000	(内線)	7768			直通	022-717-7768	
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し	東北大学病院がんセンター		アドレス	https://www.cancercenter.hosp.tohoku.ac.jp/kanwa/kanwa3.html				
12	緩和ケア病棟の設備	例：家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム（食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある）、特殊入浴室								
		家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム（食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある）、特殊入浴室								
13	訪問看護ケアの有無	例：自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など								
		なし								

地域の医療機関との連携協力体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

地域の医療機関との連携協力体制について自施設の取り組みや今後の予定を記載すること。（例：診療実績の少ない●●については××病院と協力。●●治療については××病院へ紹介。小児がん患者の在宅医療については●●診療所と連携し、急変時には受け入れることとしている。成人領域については××病院と協力し定期的に情報共有を図っている。）2枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙11を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

ファイル形式

（ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

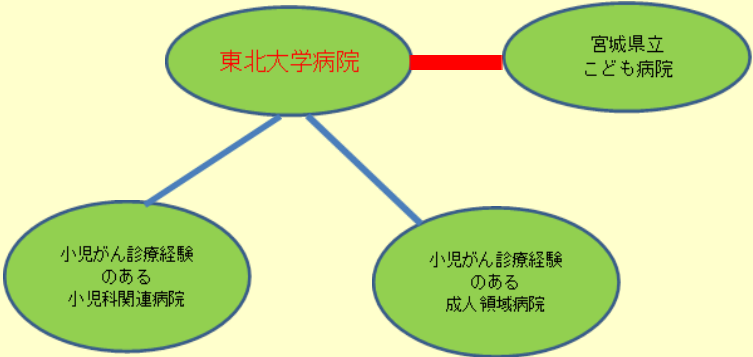
OK

東北大学病院は小児がん診療において全ての疾患で診療可能である。宮城県内においては、宮城県立こども病院血液腫瘍科と常に綿密な連携体制をとっており、初診患者の受け入れ、定期的な合同カンファレンスによる情報共有、診断と治療に関する相談と協力体制を構築しており、今後も継続する予定である。したがって、東北地方においては最も重要な小児がん連携病院である。（下図：宮城県内における小児がん診療連携体制）。

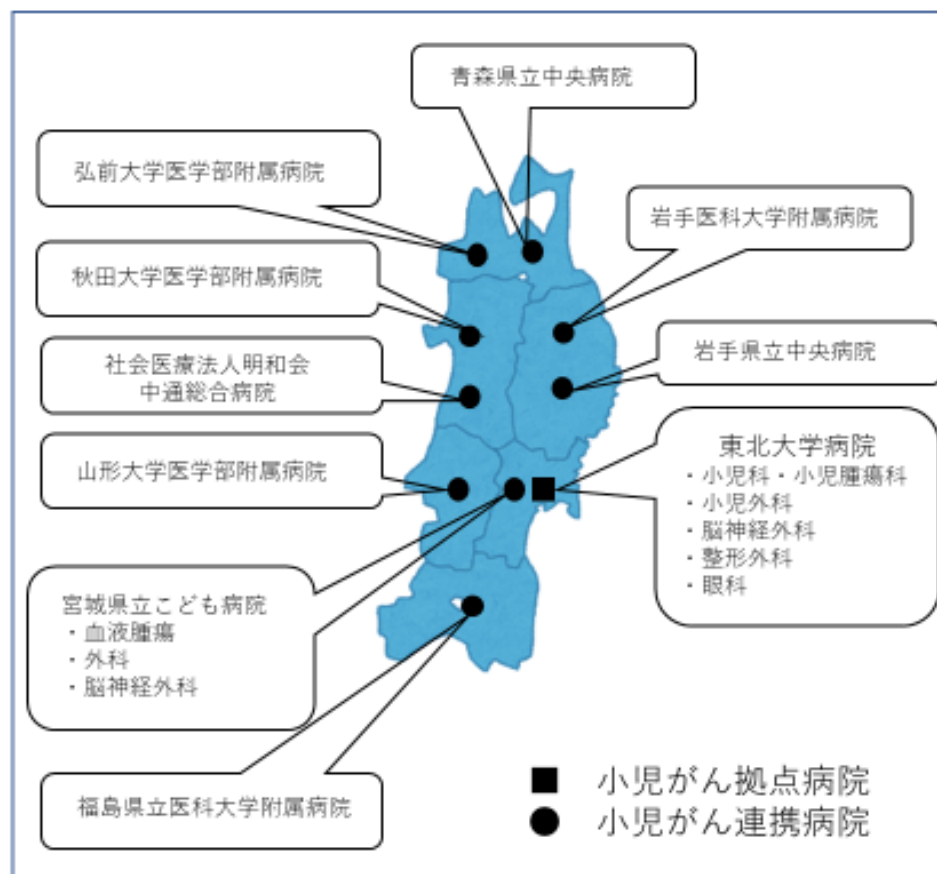
東北ブロック全体としては、東北ブロック小児がん医療提供体制協議会として、小児がん連携病院9施設との連携体制が構築されている（下次頁：東北ブロックにおける小児がん診療連携体制）。既にTV会議システムにて全ての小児がん連携病院がネットワーク化されており、遠隔医療にて相談・連携が可能である。

小児脳腫瘍においては、東北大学脳神経外科が東北地方のかなりの領域をカバーして診療を担当している。

小児がん患者様の在宅医療については、医師とMSWを中心に、御自宅に近くかつ小児がん診療経験のある施設と具体的な方法について事前に協議し、常に連絡が取れ、急変時には当院あるいは小児がん診療病院にて対応することになっている。



東北ブロック小児がん医療提供体制協議会の構成



小児がん拠点病院（1施設）

・東北大学病院

宮城

小児がん連携病院（9施設）

- ・弘前大学医学部附属病院
- ・青森県立中央病院
- ・秋田大学医学部附属病院
- ・社会医療法人明和会 中通総合病院
- ・岩手医科大学附属病院
- ・岩手県立中部病院
- ・山形大学医学部附属病院
- ・宮城県立こども病院
- ・福島県立医科大学附属病院

青森
青森
秋田
秋田
岩手
岩手
山形
宮城
福島

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無	あり
-------	----

病院名：東北大学病院
時期・期間：令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	東北大学病院 セカンドオピニオン外来	アドレス	https://www.hosp.tohoku.ac.jp/consultation/005.html		
問い合わせ先の 電話など	対応可能な 疾患名	対応した患者数 (実績)	担当する医師の情報			保険診療、または 保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。
※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

✓チェック欄
に未入力な
し

小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)				
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください	
1人目	小児科・小児腫瘍科	○	×	○	○		
2人目	脳神経外科	○	○	○	○		
3人目							
4人目							
5人目							

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)				
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください	
1人目	小児科・小児腫瘍科	○	×	○	○		
2人目							
3人目							
4人目							
5人目							

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科・小児腫瘍科	○	×	○	○	
2人目	整形外科	○	○	○	○	
3人目	小児外科	○	○	×	×	
4人目						
5人目						

OK

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科・小児腫瘍科	○	×	○	○	
2人目	小児外科	○	○	×	×	
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科・小児腫瘍科	○	×	○	○	
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

小児がん患者の遊びの場(プレイルーム等)やAYA世代の交流・勉強の場、患者家族が語り合うための場(患者サロン等)について記載すること。さらにおもちゃ・図書・パソコン・運動設備等の有無、保育士等の配置などについても記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。**2枚以内におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙13を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

東北大学病院小児医療センター(写真1)は、東5階病棟と西5階病棟で構成されており、各病棟それぞれにプレイルーム(写真2、3)があり、セミクリーン域専用プレイルーム(写真4)も設置されている。おもちゃ・図書があり、各プレイルームに計5名に専任保育士が配置されている。小児科外来においては待合室にスタッフの目が届く場所にプレイスペースがあり、さらにキッズケアルームが設置されている。小児医療センターには、AYA世代の交流も可能な患者家族が語り合うためのスペース(写真5)がある。病院全体としても患者サロン(がんサロン「ゆい」)が設置されている。

小児医療センター内に、小学校と中学校の院内学級（あおぞら学級）（写真6、7）があり、小中各学校に常勤の院内学級教師が5名以上配置されている。家族等の希望により、24時間面会または付添いを許可している。

患者の兄弟支援においては、他職種スタッフによるワーキンググループを立ち上げ、具体的な支援を立案し実行している。2019年10月4日に、「医療における兄弟支援の必要性和その実践」についての講演会を主催する予定である。



(写真1)

OK





(写真2)



(写真3)



(写真4)



(写真5)



(写真6)



(写真7)

小児がん患者およびその家族が語り合うための場

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 東北大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

語り合うための場総件数: 3

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

	名称	主催者名	病院 職員の 関与	活動状況		参加対象者			主な活動内容	参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
				定期 / 不定期	頻度 (回)	病名	院外からの参加 (参加可/参加不可)	患者のみ / 家族のみ / 患者・家族		名称	電話番号
例	〇〇〇会	〇〇〇会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	相談支援センター XXX-XXXX-XXXX直通	
1	家族語らいの会	公益財団法人がんと子供を守る会宮城支部	あり	不定期	年 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん長期療養に関する講演会、質疑応答、意見交換を行っている。	がんと子供を守る会宮城支部 080-5570-9876	
2	小児がん経験者の集い	公益財団法人がんと子供を守る会宮城支部	あり	不定期	年 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん経験者と御家族の語らい、交流を行っている。	がんと子供を守る会宮城支部 080-5570-9876	
3	シェイクハンズin仙台	小児がん経験者ネットワーク	あり	不定期	年 1	小児がん	参加可	患者のみ	小児がん経験者の交流会を開催している。	小児がん経験者ネットワーク shakehands.ccsn@gmail.com	
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書室の名称	小児がん相談室						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
		アドレス						
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子	
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌			
		100冊以上	100冊以上	0	10種類未満	10種類未満	25種類以上	
		入院中・通院中の方のみ可	入院中・通院中の方のみ可	貸し出し不可	貸し出し不可	貸し出し不可	入院中・通院中の方のみ可	
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
		設置なし		設置なし		設置なし		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	022-717-7000		(内線)	8662		
		直通1	022-717-8662		直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
		社会福祉士	2	人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	未実施						

OK

OK

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置なし	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書等が設置されている場の名称							
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
		アドレス	http://					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載		その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表			(内線)			
		直通1			直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
				人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	未実施						

OK

OK

診療実績等

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

	年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	12	固形腫瘍合計	46
ALL	7	神経芽腫瘍群	1
AML	0	網膜芽腫	2
まれな白血病	0	腎腫瘍	1
MDS／MPDのうちCML	0	肝腫瘍	2
MDS／MPDのうちCMLを除く	0	骨腫瘍	3
Non-Hodgkin Lymphoma	4	軟部腫瘍	5
Hodgkin Lymphoma	1	胚細胞腫瘍	4
その他のリンパ増殖性疾患	0	脳・脊髄腫瘍	24
組織球症(HLH)	0	その他(診断名も記載すること)	4(甲状腺癌・卵巣癌・耳下腺癌・舌癌)
組織球症(LCH)	0		
その他の組織球症	0		
その他の造血器腫瘍	0		
Down症TAM 登録	0		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

小児がんに関する研修プログラムの状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 あり

病院名: 東北大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在(研修会等の回数は平成30年1月1日～12月31日)

■研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	8
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	6
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	2
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	0

OK

■研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数: 2

OK

プログラム名		期間	対象者	H30 年度 (人)	R1 年度 (人)	H26年度以 降のプログ ラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先					プログラムの特徴
							自施設 (人)	自施設以外				
								大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外の 総合病院 (人)	その他 (人)	
1	東北大学小児科研修プログラムProgram in MIYAGI	3年	医師卒後3年～5年	10	9	56	10	0	10	36	0	小児科研修プログラムの一環として小児がん診療の研修を行う。
2	日本小児血液・がん学会専門医研修プログラム	2年	医師卒後3年～8年	1	1	8	5	0	3	0	0	日本小児血液・がん学会専門医取得の一環として小児がん診療の研修を行う。
3												
4												
5												

相談支援センターの体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

相談支援センターの名称、体制、メンバーについて記載すること。個人情報を記載しないよう注意すること。

相談支援センターの名称				小児がん相談室				
相談支援センターのメンバー								
職種		常勤／非常勤	専従/専任/兼任	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況			中央機関 による研修
					基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)	
1	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	1	受講	受講	未受講	受講
2	社会福祉士	常勤	兼任(5割未満)	14	受講	受講	未受講	受講
3	認定心理士	常勤	兼任(5割未満)	5	受講	受講	未受講	受講
4	チャイルドライフスペシャリスト	常勤	兼任(5割未満)	4	受講	受講	未受講	受講
5	看護師	常勤	兼任(5割未満)	5	受講	受講	未受講	受講
6	看護師	常勤	兼任(5割未満)	5	受講	受講	未受講	受講
7	看護師	常勤	兼任(5割未満)	5	受講	受講	未受講	受講
8	看護師	常勤	兼任(5割未満)	0	受講	受講	未受講	受講
9	臨床発達心理士	常勤	兼任(5割未満)	0	受講	受講	未受講	受講
10								
11								
12								
13								
14								
15								

●年間の相談総件数(平成30年1月1日～12月31日) 229 件
上記1件あたりの平均対応時間 平均 31 分 最短 10 分 最長 70 分 中央値 20 分

相談件数(令和元年6月1日～7月31日)

	相談者	対面相談	電話相談	FAX相談	E-mail相談	計
1	自施設の患者・家族	35	0	0	0	35
2	他施設の患者・家族	0	1	0	0	1
合計		35	1	0	0	36

相談支援内容 ※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載する予定です。		相談支援の対象者
例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1	医療情報の提供と不安・精神面のサポート:相談員が院内外を問わず、患者・家族の相談に応じています。	自施設と他施設の患者・家族
2	意思決定支援:治療や療養に関する心配事についてお話を聞きながら、一緒に状況を整理し、どのように向き合っていくか考えるお手伝いをしています。	自施設と他施設の患者・家族
3	社会資源の情報提供:医療費・生活費の不安、在宅療養やがん診療を行っている病院について、医療ソーシャルワーカーや看護師と連携し相談に応じています。	自施設と他施設の患者・家族
4	心理士が定期的に患者カウンセリングやストレス緩和に努めています。	自施設と他施設の患者・家族
5		

相談支援センターの状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 東北大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

相談支援センターの相談員など、相談支援センターの雰囲気が伝わる画像を貼付してください。
この画像は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載いたします。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙18を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/ノータロ/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【必須】相談支援センターページの基本情報で掲載する画像を**「1枚」、上記の別添資料の有無に関わらず**提出してください。

※横長の写真の方が収まりがよいです。

※上記の別添資料と同じ画像でも構いませんが、写真ファイル名を**「別紙18相談支援センター画像」**として別に添付してください。

ファイル形式

その他

(PNG/JPEG/GIF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

Word



相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 東北大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

1	相談支援センターの名称	小児がん相談室						OK	
2	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	022-717-7000	(内線)	8662				
		直通1	022-717-8662						
		直通2							
		直通3							
3	対面相談の実施(実施/未実施)	実施							OK
	予約の要否(必要/不要)	不要							
	電話相談の実施(実施/未実施)	実施							OK
	相談用の電話番号	代表	022-717-7000	(内線)	8662				
直通1		022-717-8662	直通2						
予約の要否(必要/不要)		不要							
4	FAX相談の実施(実施/未実施)	未実施							OK
	相談用のFAX番号 ※半角英数で記載 ※代表番号は、直通番号がない場合のみ記載	直通1				直通2			
		代表							
	電子メール相談の実施(実施/未実施)	実施							OK
	相談用の電子メールアドレス ※半角英数で記載 ※個人のメールアドレスは記載しないでください	1	soudan@ped.med.tohoku.ac.jp						
		2							
5	相談員の職種・人数 ※選択肢に含まれていない職種の場合は、その他の欄に直接記載	(例)精神保健福祉士		2	人	ソーシャルワーカー(上記以外)		1	人
		医療心理に携わる者		2	人				人
		看護師		4	人				人
		社会福祉士		2	人				人
					人	その他	チャイルドライフスペシャリスト	1	人
					人	その他			人
6	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施							OK
	具体的な活動内容								
	地域の患者会の情報提供の有無	あり							OK
	提供可能な患者会の数	1							

7	上記患者会の参加対象者の疾患名 ※特定の疾患の患者さんや家族を対象とした患者会が含まれている場合のみ記載 (例:乳がん、血液腫瘍、子どものがん、女性のがんなど)	小児がん全般
---	--	--------

小児がん患者団体との連携

記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 東北大学病院
時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

団体総件数: 2 OK

小児がん患者団体との連携(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。

小児がん患者団体			具体的な連携の内容 (例: 月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)
団体名		団体の参加対象者	
1	公益財団法人 がんの子供を守る会 宮城県支部	小児がん経験者とそのご家族	小児がん患者と御家族の支援・交流、小児がんの地域社会への啓発活動と勉強会として以下の内容を年1回、連携協力のもとで行っている。家族語らいの会、小児がん経験者の集い、フリーマーケット、いのちの輝き展(絵画展)、そらの会(子どもを亡くした親の会)、臍帯血バンクチャリティーコンサート、2D上映会(東北大学病院)、クリスマス会(東北大学病院)
2	シェークハンズ	小児がん経験者	小児がん患者の支援・交流と勉強会として、連携協力のもと、勉強会・交流会を行っている。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

地域住民へのメッセージ

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

※本別紙は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」のがん診療連携拠点病院のページに掲載することを目的としています。
※各項目200字以内で記載してください。

1	小児がん拠点病院としてのメッセージ
	(例) 当院は、すべてのがん患者さんの治療方針の決定を外科、腫瘍内科、放射線治療等複数の領域の専門家による「カンサーボード」によって十分に検討し、最善の治療を行うよう努めております。
2	東北ブロック唯一の小児がん拠点病院として、難治性小児がん症例、高度の集学的治療を必要とする脳腫瘍症例、免疫不全症を合併する特殊な病態を有する小児がん症例の紹介受け入れを行っています。多職種および複数診療科によるチーム医療のもと、新たに小児腫瘍センターを設立し、小児がん合同カンファレンスで検討の上、患者様に最良の集学的医療を提供します。また、東北ブロック全体として東北ブロック小児がん医療提供体制協議会および東北ブロック小児がん相談支援部会を設立し、東北ブロック全10施設の小児がん連携病院との長期的な連携診療体制を構築しています。
	相談支援センターからのメッセージ
3	(例) 医療ソーシャルワーカーが皆様のお話を伺い、一緒に考え、課題解決のお手伝いをさせていただきます。また、お話をお伺いし、専門の看護師やスタッフをご紹介させていただきます。
	入院・通院されている患者様・ご家族、地域の皆様から小児がんに関する相談を専門の多職種スタッフがお受けいたします。例えば、療養に関する不安・心配、がんの治療、社会資源の活用などです。成人のがん相談員とも連携し、就労に関するご相談もお受けしておりますので、お気軽にご相談ください。
4	緩和ケアチームからのメッセージ
	(例) 緩和ケアチームには、長年緩和医療に携わっている経験を積んだ医師、看護師、薬剤師が含まれ、身体的な痛みを始め、患者さんの精神的苦痛を和らげるため、担当医と連携し、最善の医療を提供します。
5	医師、看護師、薬剤師、栄養士、MSW等の専門職が協力しながら、患者さんご家族が抱える様々なお悩みについて、知恵を出し合い苦痛を和らげるように「チーム医療」を実践します。
	緩和ケア病棟からのメッセージ(※緩和ケア病棟が設置されている場合のみ記載してください。)
6	(例) 緩和ケア病棟は、別棟となっており、全室から中庭に出ることが可能で、豊かな自然を感じて、充実した時間を過ごすことができます。
	緩和ケア病棟では、リハビリテーション科、精神科、歯科等と連携して、患者さんのQOLとADLの維持に努めるとともに、音楽療法士ほか大勢のボランティアが癒しの空間を創り、季節毎に病棟ミニコンサートを開催するなどして、患者さん、ご家族に少しでも良い時間を過ごしていただけるよう努めています。

臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 東北大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

各部門のメンバー(個人情報を記載しないよう注意すること)

メンバー総人数: 117

OK

各部門名		各部門のメンバーの専門性・職種
例	事務部門、データセンター部門、コーディネーター部門、治験管理室	薬事専門家、CRC、リサーチ・コンシェルジュ、生物統計家、事務担当
1	再生医療ユニット、PET臨床研究ユニット	『再生医療』CPC管理者(細胞製造・品質管理)、『PET臨床研究』研究用PET薬剤合成
2	医療情報部門	医療情報専門家
3	バイオデザイン部門	新規開発シーズ発掘産学連携
4	臨床研究実施部門、臨床研究安全管理部門	CRC、IRB事務局、試験薬管理、安全性情報管理
5	開発推進部門、国際部門	プロジェクトマネジメント、薬事専門家、医師主導治験事務局
6	プロトコル作成支援部門	プロトコル作成支援
7	臨床研究ネットワーク部門	臨床研究ネットワーク
8	教育部門、広報部門	臨床研究医師・臨床研究支援スタッフ教育、広報
9	知財部門	発明の発掘及び抽出、管理
10	臨床試験データセンター、品質保証部門	生物統計家、データマネジャー、モニタリング、監査

臨床研究の問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

【臨床試験（治験を除く）】の問い合わせ窓口

1	■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について				臨床試験（治験を除く）専用の窓口がある				OK
	※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。								
	窓口の名称			臨床研究・治験相談窓口					
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究・治験相談窓口						
		アドレス	https://www.hosp.tohoku.ac.jp/consultation/007.html						
電話	代表	022-717-7000	(内線)	8654					
	直通	022-717-8654							

2	■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について				臨床試験（治験を除く）専用の窓口がある				OK
	※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。								
	窓口の名称			臨床研究・治験相談窓口					
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究・治験相談窓口						
		アドレス	https://www.hosp.tohoku.ac.jp/consultation/007.html						
電話	代表	022-717-7000	(内線)	8654					
	直通	022-717-8654							

【 臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)】の問い合わせ窓口										
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について							担当している診療科が窓口となっている			OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称		小児科・小児腫瘍科							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	東北大学病院小児腫瘍センター							
		アドレス	http://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/							
	電話	代表	022-717-7000	(内線)	7744					
		直通	022-717-7744							
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について							担当している診療科が窓口となっている			OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称		小児科・小児腫瘍科							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	東北大学病院小児腫瘍センター							
		アドレス	http://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/							
	電話	代表	022-717-7000	(内線)	7744					
		直通	022-717-7744							
【 治験 】の問い合わせ窓口										
■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について							治験専用の窓口がある			OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称		臨床研究・治験相談窓口							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究・治験相談窓口							
		アドレス	https://www.hosp.tohoku.ac.jp/consultation/007.html							
	電話	代表	022-717-7000	(内線)	8654					
		直通	022-717-8654							
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について							治験専用の窓口がある			OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称		臨床研究・治験相談窓口							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究・治験相談窓口							
		アドレス	https://www.hosp.tohoku.ac.jp/consultation/007.html							
	電話	代表	022-717-7000	(内線)	8654					
		直通	022-717-8654							

教育支援、復園・復学支援の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

教育支援、復園・復学支援の状況について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙24を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

・患者への教育実施体制

現在小児医療センター内に院内学級(小学校、中学校)が常設されており、常勤院内学級教師が勤務している。今後もこの教育実施体制を継続する予定である。

・復園および復学支援と多職種間の連携体制 (右図)

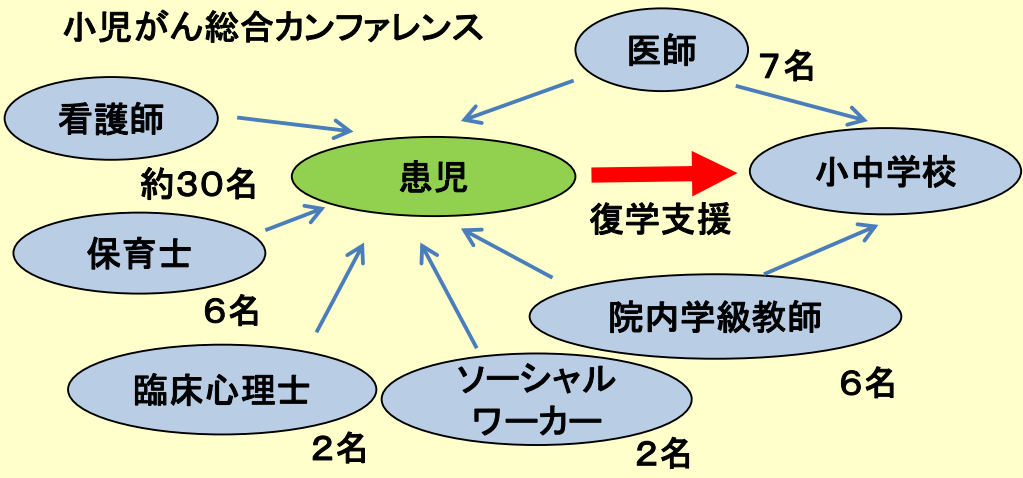
小児がん総合カンファレンスにおける看護師、保育士、臨床心理士およびソーシャルワーカーとの情報共有のもと、院内学級教師と医師を中心に、居住地保育園、幼稚園、小中学校と連携して復学支援を行っており、今後も継続する。

・高校生学習支援プログラム

東北大学医学部学生の有志がサークルを設立し、長期入院中の高校生の復学支援を、平成28年11月より週3回にて開始した。
小児がん拠点病院として高校生復学支援を全面的にサポートするため、サークルの運営のサポートと患児とご家族との橋渡しを行っている。

・宮城県教育庁高等教育課との公立高校生復学支援の公的体制の設立に向けた検討

宮城県教育庁高等教育課と有識者による調査研究協力者会議を開始し、具体的な公的支援体制作りを開始している。



長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備（調理スペース、ランドリー、プレイルーム等）、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙25を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

ファイル形式

（ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

1. ラッコハウス（下写真左：室内と設備）

仙台市青葉区滝道46番8号（東北大学病院から車で約15分）

2DK（和室6畳X2、キッチン、バス、洗面所、トイレ）、駐車場1台（無料）

設備：洗濯乾燥機、アメニティーセット、台所用品一式、冷蔵庫、電子レンジ、炊飯器、寝具5組、エアコン、テレビ、絵本、おもちゃなど。

常勤：ソーシャルワーカー資格を有するスタッフ1名。医療制度から生活面までの相談に応じる。

管理：NPO法人 ワンダーポケット 電話 022-277-5702

2. せんだいいハウス（下写真右：室内と設備）

仙台市青葉区落合4丁目5-3（東北大学病院から車で約30分、宮城県立こども病院より徒歩5分）

2DK（洋室、キッチン、バス、洗面所、トイレ）、駐車場無料 語らいのスペースおよびプレイルーム完備

設備：洗濯乾燥機、アメニティーセット、台所用品一式、冷蔵庫、電子レンジ、炊飯器、寝具、エアコン、テレビ、絵本、おもちゃなど。

常勤：常勤スタッフおよびボランティア複数名。医療制度から生活面までの相談に応じる。



PDCAサイクルについて

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 東北大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ①院内の見やすい場所に掲示している
②院内誌、チラシ等で広報している
③ホームページに掲載している
④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

いいえ (はい/いいえ)
いいえ (はい/いいえ)
はい (はい/いいえ)

OK
OK
OK

- ⑤地域の広報誌等で広報している
⑥その他の方法で掲載している

https://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/

いいえ (はい/いいえ)
いいえ (はい/いいえ)

OK
OK

- ⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3か月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 患者満足度の向上	入院患者の80%以上が入院治療環境に満足する	サロン利用者に聞き取りを行い、必要時患者アンケートを行う。
2 多職種スタッフの充実	入院・外来患者の支援を行う多職種スタッフの充実と業務改善を行う。	小児がん患者診療支援に必要なサービスを提供し得ているかの自己点検を行う。
3 ブレイルーム設備の充実	入院・外来ブレイルーム設備と運営の充実化を図る。	小児がん患者診療支援に必要なブレイルーム設備と運営が適切になされているかの自己点検を行う。
4		
5		

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	サロン利用者への聞き取りと必要時患者アンケートを行い、患者ニーズを把握し、実践可能な内容を実現していく。
2	経営上可能な範囲での多職種スタッフの雇用と教育、勤務管理を行い、小児がん診療支援に必要なサービスを提供するよう努力する。
3	入院および外来のブレイルームの設備充足と運営を行い、小児がん診療に必要な保育を十分提供できるようにする。
4	
5	

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙28を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

OK

ファイル形式

(ワード/ノー太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

医療安全体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名：東北大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

医療に係る安全管理を行う部門の名称			医療安全係		
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー					
職種		常勤／非常勤	専従／専任／兼任	人数	うち、医療安全対策に係る研修を受講した者の人数
1	医師	常勤	専従	1	1
			専任	1	1
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
2	薬剤師	常勤	専従	1	1
			専任		
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
3	看護師	常勤	専従	2	1
			専任		
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
4	歯科医師	常勤	兼任(5割未満)	1	
5	事務職員	常勤	専従(8割以上)	1	
6					
7					
8					
9					
10					

OK

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		医療安全係				
電話	直通	022-717-7992				
	代表	022-717-7000	(内線)	7992		

OK